

日本科学未来館 ワークショップの報告

1. 概要
2. ワークショップの内容
3. 意見の抜粋
4. まとめ

概要

- (1) 目的：一般の方々が持つ人工知能についての意識や考え方を収集する
- (2) 実施期間：2016年11月16日～2017年1月12日（継続中）
- (3) 実施場所：日本科学未来館 常設展内 コ・スタジオ
- (4) 実施方法：来館者を対象に、科学コミュニケーターがファシリテーションを行う
- (5) 実施回数：33回（1月12日現在）
- (6) 参加人数：合計152人（1月12日現在）
- (7) 意見総数：合計270件（1月12日現在）



日本科学未来館（場所：東京都江東区）



コ・スタジオの外観

ワークショップの内容

(1) テーマ：懇談会における分類を参考に、4つの個別事例を選択

- ① 移動： 自動運転で、私たちの暮らしはどう変わる？（協力：プリファードネットワークス 丸山宏様）
- ② 製造： AI小説で、私たちの暮らしはどう変わる？（協力：公立はこだて未来大学 松原仁様）
- ③ 個人サービス： 医療AIで、私たちの暮らしはどう変わる？（協力：東京大学 宮野悟様）
- ④ 対話・交流： AIが対話相手になると、私たちの暮らしはどう変わる？（協力：東京大学 江間有沙様）
※ただし、対話・交流に関しては、1月20日以降に行う予定。

(2) ワークショップの構成（1回15分程度）

- ① トーク： AIとは何か？
- ② トーク： AIが生活（個別事例）の中に入ると何がどう変わる？（研究者が描く10年後の未来像）
- ③ トーク： その実現性は？（研究開発の現在）
- ④ ワーク： ワークシート（10年後の未来）の中に人物やセリフなどを書き込んでもらう



ワークショップの様子



ワークシートのサンプル

意見の抜粋（1）

事例① 自動運転で、私たちの暮らしはどう変わる？

倫理的
論点

- 運転する楽しさを失わないようにしてほしい。

法的
論点

- 人間の運転を禁止し、全車両を自動運転に切り替えた方がより安全だと思う。そうすれば、責任問題は、自動運転システムの開発会社に転換されると思う。

経済的
論点

- 自動運転によって人の仕事が失われるのでは？ それよりも人が運転する電車やバスを発達させて、人間に頼る社会であってほしい。

社会的
論点

- この前おばあちゃんが車で事故をおこしたので、手助けになると思います。
- 父は車の輸出業をやっている。船に自動運転の車を乗せられるようになれば、積み込みが楽になりそう。
- 自動運転の車だと周りに分かるかたちで動いてほしい。
- 久しぶりに帰省したのに、実家から来たのは無人運転の車。みんな忙しいのは分かるけど、ちょっとさびしい。

研究開
発論点

- AI部分の整備はどのような人がするの？ これまでの自動車整備士では難しい。
- 夜中にステーションに集合し、メンテナンスする自動運転。

事例② AI小説で、私たちの暮らしはどう変わる？

倫理的 論点

- 作家が人間の名前で本を出しているのに、実際はAIが書いているということも起こるのでは？

法的 論点

- 人工知能の小説よりも、人が書いた小説を読みたい。人が書いたかどうかを判断できるようにしてほしい

社会的 論点

- AIと自分が共同制作した場合、どちらに著作権が付与されるのか、それに対して争いごとが起こらないのか
- 「書く」という根本的な行為に対して認識が変わるため、受験の意味などが変わってくるのでは
- AIによるサポートが充実すると、逆に「生みの努力」をみながしなくなってしまうのでは？

研究開 発論点

- 他の人と違う話題を読むので、お互い共通の話題がなくなってしまうかもしれない
- 自分の半生を自伝として残したいが、人工知能にある程度フィクションを加えて欲しい。ただし、それが一般には公開されては欲しくない。
- 自分が経験した内容や、読んだものを、要約してストックしてくれるAIが欲しい

事例③ 医療AIで、私たちの暮らしはどう変わる？

倫理的 論点

- 遺伝情報だけで自分のことがわかるとは思えない、使ってくれて構わない。でも、そうまでしてみんな長生きするのがいいことなのかな？

法的 論点

- しっかり治る方法や薬を処方してくれそう。医者存在意義ってなんだろう。
- 自分のデータが役に立つなら使って欲しいが、子供に心配かけたくないので知られないようにしてほしい。
- 病気以外のことも何でもわかってしまう情報って誰が管理してくれるんだろう。

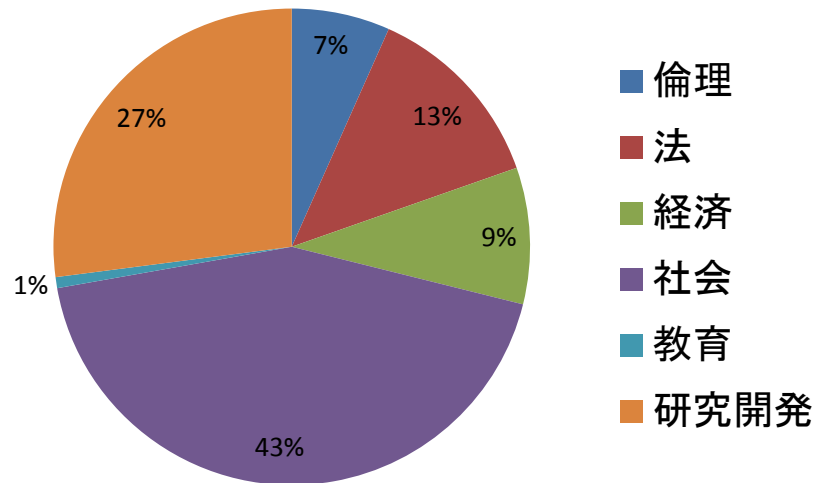
社会的 論点

- より多くのデータが正しい方向に導いてくれるはず、積極的に使っていきたいしデータも提供する。合っているかどうかはこだわらない。
- 重病だったら専用の薬などで対処してくれると助かるけど、病気でもないのに何かしたり伝えられたりするのには抵抗がある。結局大きく生活を変えたりはしないと思う。
- 健康状態の推定などによって人生も左右される気がしてイヤ。そこまで知らなくても。

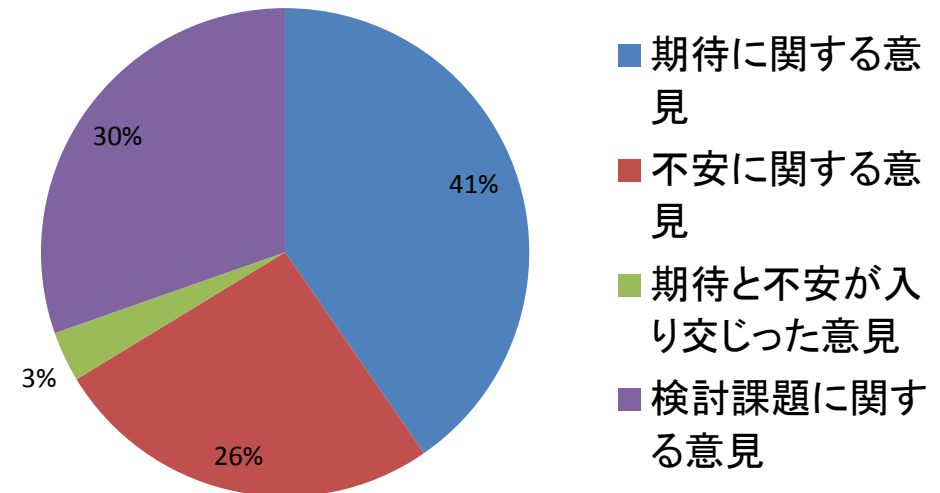
教育的 論点

- AIのおかげで医療について関心を持っていなかった人も自分の現状をよりよく把握できると思う。健康への意識の高まるのでよいと思う。

(1) 全体の傾向



社会的論点に関する意見が最も多かった。



期待と不安、検討課題をバランス良く引き出せた。

(2) 新しい視点

一般の方々から、懇談会での論点とは異なった視点からの意見が寄せられている。そのいくつかを挙げる。

- AIが浸透することで、人間同士の関係性が変わる（実家から無人の車に迎えられるのは寂しい、共通の話題がなくなる、等）
- 個人的な背景による、「例外」とされがちな意見（静岡の山奥で運転していて鹿や野ウサギに会ったとき困る、等）
- こんなサービスが欲しい！（自分史を自分のためだけに執筆するAI、夜中にステーションに集合しメンテナンスする自動運転車、等）

(3) 今後の予定

2月中旬までワークショップを続け、結果をとりまとめて最終報告する予定。

ワークショップ企画・実施：日本科学未来館
科学コミュニケーション専門主任 小沢淳
科学コミュニケーター 志水正敏、片平圭貴、山内俊幸、眞木まどか

シナリオ制作にご協力戴いた方々（敬称略）
東京大学教養学部 特任講師 江間有沙
公立はこだて未来大学 副理事長・教授 松原仁
株式会社プリファードネットワークス 最高戦略責任者 丸山宏
東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター長・教授 宮野悟